

ファミリータイム

長生村立長生中学校 二年 鈴木 麻央

私は今だからこそ「家族でできること」、それをみなさんにお伝えしたいです。

約一年半前、日本で新型コロナウイルスが流行し始め、今まで普通にできていた家族や友達とのお出かけ、さらには学校行事なども制限されてしまいました。

そのため「あれもできない。」「これもできない。」とストレスを感じる子供や大人が増えテレビなどでもその様子がたびたび取り上げられていました。

しかし、みなさん、考えてみてください。友達と会えない、遊べない、だから何もできない。そんなはずはありません。私達には家族がいるじゃないですか。

辛いとき、悲しいときには、助け合える。そして嬉しいとき、楽しいときには、笑い合える。

そんな家族がいるにもかかわらず、何もできないと決めつけ、一人でゲームやユーチューブ。そんなのせつかく家族といられる時間にもったいないと思いませんか。

私も昨年の六月頃は一人で部屋にこもり、一日中ゲームやユーチューブをして過ごし、家族との時間はご飯のときくらい。それもたったの三十分でした。

しかし、ある日学校で、同級生の子が「コロナ流行ってからずっと一人で部屋にこもってる。」とつぶやきました。

私はその一言を聞き、「そう言えば私もそうだ。家族と全然話し合っていない。」と、ようやく自分の生活が変わってしまっていたことに気がつきました。

そこでその日の夜、家族に「一緒に過ごす時間を増やしたい。」と相談しました。みんな快く「いいね。」と言ってくれたので、一日一回は家族みんなで遊ぶ時間をつくることに決め、少なくとも三十分は「ファミリータイム」を設けました。

次の日、午後八時頃から家族みんなでリビングに集まり、八時五十分までと時間を決めてから、トランプで色々なゲームをしました。

テレビゲームで弱い母が、トランプの「スピード」を始めると、目で追うのがやっとくらい手の動きが速くてびっくりしました。自信があった父も負け、私達は全員完敗。それから母を見る目が変わりました。

久しぶりの家族との交流だったので、とても楽しかったのを覚えています。遊びなのに

思わず本気になってしまい、おもしろくって楽しくって、家族全員で心の底から笑い合っていました。

ゲームをするのも楽しかったのですが、私は家族のそんな表情を見るのが楽しかったです。そして、何よりも私の提案をきっかけに家族が笑顔になったのが、とても嬉しかったです。

みなさんもぜひ私が感じた、この楽しくて嬉しい、心まで温まるようないい気持ちを味わってもらいたいです。そして、この提案「ファミリータイム」を私の声だけでは届かない様々な人たちにも広めていきたいです。

全ての家庭が私達家族のように遊ぶ時間があるとは限りません。しかし、遊ぶ時間でもなくてもいいのです。一緒にゆっくりご飯を食べる時間。一緒にテレビを見て笑い合う時間。何でもいいのです。時間は「つくるもの」だと思います。だから、「時間が無い。」そう思った人も一度考えてみてください。そして少しでも家族といられる時間をもってほしいです。

このコロナ禍でも、楽しく充実したときを過ごせるように、今は友達とできなくても、家族とならできることを、一緒に探してみませんか。もしかしたら、今だからこそできることが見つかるかもしれませんよ。